

国際法学会 2019 年度研究大会
公募（個別報告）審査結果

2019 年 3 月 19 日
研究企画委員会

国際法学会の 2019 年度研究大会における個別報告を公募しておりましたところ、多数のご応募を頂き、誠にありがとうございました。研究企画委員会において審査を行いました結果、下記のように採用が決定されましたので、お知らせいたします。

なお、順番は必ずしも報告順ではありませんので、その旨ご了解ください。

記

- (1) 小阪真也（立命館大学政策科学部助教）
「国際刑事法廷は何を遺すのか？—国際刑事法廷における『積極的補完性』の実行と国内の法の支配の確立」
- (2) 平野実晴（日本学術振興会特別研究員 PD）
「『水のグローバルガバナンス』の行政法的分析—水に対する人権の実現過程に着目して」
- (3) 中澤祐香（早稲田大学大学院法学研究科博士後期課程）
「国際刑事司法における普遍主義・地域主義・個別主義—衝突と協働の構図—」
- (4) 大下隼（早稲田大学大学院法学研究科博士後期課程）
「核不拡散法における貿易管理義務の国内実施—安保理決議 1540 を素材として—」

以上